

平成30年度 研究・調査企画会議 事後評価部会（第2回）
議事概要

1 日時：平成30年8月27日（月）13：00～14：20

2 場所：食品安全委員会中会議室

3 出席者（8名）五十音順

圓藤 陽子（圓藤労働衛生コンサルタント事務所所長）

◎岡部 信彦（川崎市健康安全研究所所長）

鬼武 一夫（日本生活協同組合連合会品質保証本部総合品質保証担当）

眞鍋 昇（大阪国際大学教授（学長補佐））

丸井 英二（人間総合科学大学教授）

宮崎 茂（一般財団法人生物科学安全研究所参与）

望月 眞弓（慶應義塾大学薬学部教授・慶應義塾大学病院薬剤部長）

四方田千佳子（神戸薬科大学特任教授）

（◎：座長）

その他、食品安全委員会から佐藤委員長ほか4名が、事務局から川島事務局長ほか9名が出席

4 議事概要

（1）平成29年度終了研究課題の事後評価結果（案）について

○ 事務局から、前回の事後評価部会において事後評価（ヒアリング審査）を実施した以下①から⑧の平成29年度終了研究課題について、事後評価部会委員の評価コメントや意見に基づき事務局で取りまとめた各課題の評価所見（案）が提示され、審議を行った。

○ その結果、各委員からの意見を踏まえて事務局が評価所見（案）を修正し、同部会委員が内容を確認した上で、食品安全委員会に報告することになった。

○ 事後評価結果を踏まえて、今後開催予定の研究発表会での発表課題については、課題番号1503、1602及び1603を選定した。また、専門調査会での発表課題については、関連する審議等が終了している課題を除くすべての課題について可能な限り、専門調査会において発表することとした。

<事後評価対象課題>

①1503：食事由来アクリルアミドばく露量推定方法の開発と妥当性の検討および大規模コホート研究に基づく発がんリスクとの関連に関する研究
（大阪大学：祖父江 友孝）

②1601：経管栄養食品等に含まれるセレン化合物の化学形態に着目したリスク評価及びバイオアベイラビリティに関する研究（千葉大学：小椋康光）

- ③1602：インビボ毒性試験成績のデータベース化とそのインシリコ解析・評価への応用に関する研究（静岡県立大学：吉成浩一）
- ④1603：食品用ペットボトルから溶出する化学物質の摂取量の推定に関する研究（地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所：尾崎麻子）
- ⑤1604：有機ヒ素化合物による発がんメカニズムの解明（大阪市立大学：鰐淵英機）
- ⑥1605：血漿マイクロRNAの発現変動を指標とした化学物質の新規毒性評価系の構築・評価研究（名古屋大学：横井 毅）
- ⑦1606：食肉由来腸球菌の抗菌性飼料添加物に対する耐性と多剤耐性伝達性プラスミドとの関係についての調査・研究（群馬大学：富田治芳）
- ⑧1701：アレルギー物質を含む食品についてのリスク評価方法の確立に関する研究（国立研究開発法人国立成育医療研究センター：斎藤博久）

(2) 食品安全確保総合調査の事後評価結果（案）について（報告）

- 事務局から、平成29年度に実施した以下の食品安全確保総合調査課題について、事務局が行った事後評価の結果が報告された。

<29年度実施課題>

- ①畜水産食品における薬剤耐性菌の出現実態調査（水産関連プロトコルの試行）
- ②海外における汚染物質等に係るばく露評価に関する実態調査
- ③卵及び乳アレルギーに係る食品表示についての食品健康影響評価のための調査
- ④食品健康影響評価及びその関連情報の検索性向上に関する調査
- ⑤食品を介してヒトに伝播される薬剤耐性菌に関する文献等調査（テトラサイクリン系抗生物質等に関するヒト医療における状況）
- ⑥海外における食品添加物のリスク評価手法に関する実態調査
- ⑦*in silico*評価支援ツールの現状に関する調査

(3) 食品健康影響評価技術研究及び食品安全確保総合調査の平成29年度追跡評価結果について（報告）

- 事務局から、昨年12月6日の研究・調査企画会議プログラム評価部会において、研究事業及び調査事業の活用状況について追跡評価を行った結果について、事務局から報告された。

—以上—

(注：本部会は個別具体的な研究者や研究課題名及び研究の内容に言及して議論が行われることから、非公開で行った。このため、本会議の議事概要についても、それらが特定されない形で公表するものである。)